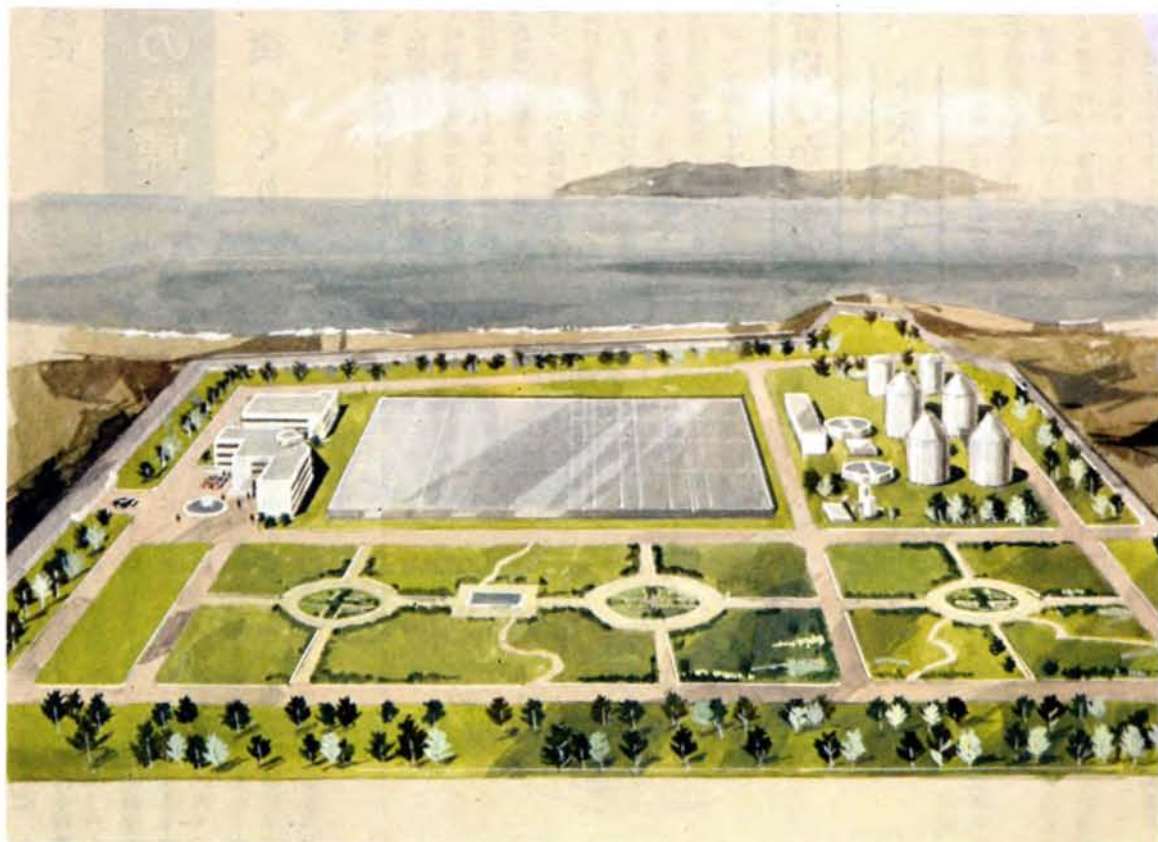


市政だより

おおむら

下水道
特別号



緑あふれる浄水管理センター(処理場)の完成予想図

下水道ひらく暮らしの新時代

昭和49年から

下水道の街を

総事業費 320億円

9月10日の「全国下水道促進デー」は、国内で約19%にすぎない下水道普及率を高めるため国と地方公共団体と地域住民が一体となって、下水道に対する認識と理解を深め、その計画的な整備・促進を全国的に盛り上げる“国民運動の日”です。

この期に、下水道事業について認識をあらたにしてみましょう。

写真は、市で計画している公共下水道の心臓部ともいべき浄水管理センター(処理場)の完成予想図です。下水中の汚濁物質(有機物)を好気性細菌群によって分解・消化してきれいにする働きを、化学的に応用した施設を地下式に造り、上部や周囲は緑地・公園にして市民のいこの場を利用する計画です。

(ここをとじてください)

昭和六十五年を目標に

公共下水道の整備

美しい街づくり

現在市で計画している下水道事業は、昭和六十五年を目

標にして都市計画用途地域内の約千八百六十ヘクタールを対象区域にして計画処理人口を八万六千人としています。総事業費は三百二十億円で工事の実施は全体を四期にわけておこない、その第一期工事は四十九年から五十五年までの七カ年計画で旧市街地の二百十八ヘクタール（五十三年末には一部供用開始を目標）を予定し、概算事業費五十二億円を見込んでおり、残りの地区は順次計画を広げていく考えです。

下水を処理する方法は、汚水と雨水を別々の系統に分けて排除する分流式を採用し、汚水は地下に埋設した下水管を通して浄水管理センター（処理場）に集め、そこできれいな水にして大村湾に放流し

ます。第一期の区域内だけでも下に埋設する下水管の延長は大村市から島原市に至る約五万四千メートルにもおよび、その間に中継ポンプ場一カ所マンホール千四百個などつくられる予定です。

また、雨水は既存の水路などを改修し、道路の側溝などを極力雨水排除に利用することとしております。

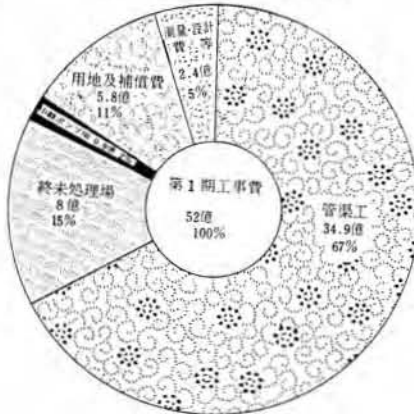
費用のかかる

下水道工事

下水道工事には、膨大なお金を必要とします。道路に埋めるパイプ（ヒューム管）は、一番細いもので二百五十ミリメートル、これが下流に行けば行くほど汚水

量が多くなるので、だんだん太くなり、一番大きなもので二千ミリメートルにもなります。又、大村市は平坦な土地であり汚水が流れにくいいため、パイプに勾配をつけて埋設して行きますので管の位置が深くなり費用もかかりますので途中に、「中継ポンプ場」が必要になってきます。海岸近くの国道では、トンネル方式によって汚水幹線を布設することになり、一メートル当り三十五万円程度の費用がかかる場所もあります。『できるだけ少ない費用で建設するように計画をしておりますが、第一期工事だけでも約五十二億円もかかる大事業です。』

〔下水道工事費内訳〕

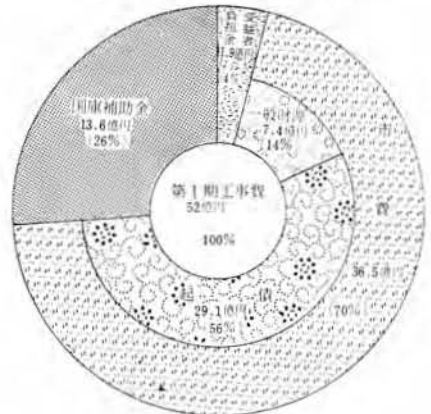


下水道事業の財源

52億円という、膨大な工事費はどうやってまかなったら

よいでしょうか。市は教育、土木、保健、福祉などいろいろな仕事をしなければなりません。しかも、そのどれをとってもおろそかにできないものばかりです。したがって下水道事業にあ

〔下水道財源計画内訳〕



る市の予算には限度があり市だけで実施すると何十年もかかることとなります。これを早期に、計画どおりに完成させるためには、国庫補助金、起債（市の借金）一般市費と、それに受益者負担金を合わせて建設費をまかないたいと考えております。

はやく

つくる方法

下水道の建設に何十年もかかっていたのでは、その間の

労務費や諸物価が値上りして工事費は高くなり、工法的にも非常にやりにくくなり、予定した工事費ではできないこととなります。そこで一日も早く下水道を整備するために「受益者負担金制度」を採用したいと思うわけです。

この制度は、下水道を建設しているほとんどの都市が採用しております。国としても、この制度を採用している市に対しては、優先的に国庫補助金や起債などのめんどうをみてくれるため下水道事業に欠くことのできない制度であるといえます。

◆「全国下水道促進デー」

9月10日

◆ 下水道 ひらく暮らしの新時代

受益者

負担金

制度とは

この制度は、ひとくちにいえば下水道を利用できる区域内にある土地の所有者などから都市計画法第七十五条の規定によって、下水道建設事業費の一部を負担していただくという制度です。

受益者負担金をいただくことは、ひとり本市の財政上の重要な財源となるばかりでなく、市は負担金徴収の代償として、市民の皆さんに対して下水道の整備をすることが義務づけられることになるため、国としても負担金徴収都市に對しては財政的にも優先的に配慮し、整備計画の円滑な実施を保證せざるをえないことになるわけです。

市の考えでは、五分の一を採用して土地面積、一平方メートル当たり約百五十円（坪当り五百円）程度とし、納入方法については五カ年分割払いでお願いし、また区域内にある農地などについては、その土地が宅地として使用されるまで徴収を猶予したいと思っております。

受益者

のきめ方

受益者負担金を納めていただくのは、下水道が整備され利用することができる区域内に土地を持っておられる人かまたは借地権など土地に権利を持っている人です。

ただし、権利者については一時的な地上権賃借権は除かれます。

したがって、たいていの場合、受益者負担金を納めていただくのは下図のとおりとなります。

<p>例 1</p> <p>土地所有者、家屋所有者が同居者が同一の場合の受益者は A</p> <p>〔A が単独で申告〕</p>	<p>例 2</p> <p>家屋所有者と同居者が同一で、土地所有者が異なる場合の受益者は B</p> <p>〔A と B が連署で申告〕</p>	<p>例 3</p> <p>土地と家屋の所有者が同一で、居住者が異なる場合の受益者は A</p> <p>〔A が単独で申告〕</p>	<p>例 4</p> <p>土地所有者、家屋所有者が同居者がそれぞれ異なる場合の受益者は B</p> <p>〔A と B が連署で申告〕</p>
--	--	--	--

受益者の変更

変更

土地を売買したり、土地を貸した場合など、受益者に変更を生じたときは、その時から新しい受益者が負担金を納めることとなります。

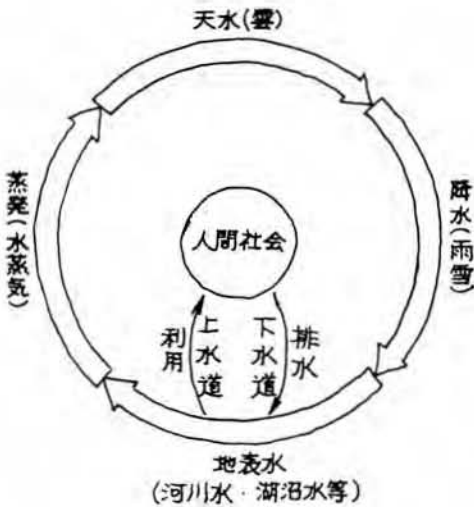
水は生命の根源

汚れゆく水を

自然に返す

人類の文明が、川のはとりに始まったように、私達の生活は、大昔から水と深いかわりをもってきました。その水は大自然の営みの中で、つねにかたちをかえ、循環しているのです。私達人間の悪いの場でもあります。

水のサイクル



おくれ

いる下水道

アメリカ、フランスなどの先進国では、下水道はもちろん下水道の普及にも大変な力を入れております。しかしながら日本の場合、国民総生産額(GNP)は世界第二位といわれ、生活様式も一段と進歩しましたが、こと下水道に関しては非常に立ち遅れている現状です。市においても、上水道の普及は全国平均を上廻り、都市計画区域内で九十三%の高率を示しておりますが、下水道は立ち遅れ、今なお側溝等に頼らざるを得ない状態であり、そこで市は、この水を守ります。

それだけに、私達は使用した水を、もとの清浄な水にして自然に返す(下水道)という、人間の役割をはたさなければならぬのです。しかしながら、この水がいま一日と汚されています。

健康で明るい住みよい街づくりを旨として公共下水道建設の計画をしました。

下水道を建設するには、膨大な資金と多くの歳月がかかり、又、し尿が農作物の肥料として重要な役目を果たしていた習慣が長く続いてきたため、又、差し当たり便所はく

み取り方式で、なんとかやりくりがつくなど、下水道の普及を遅らせてきたのではないのでしょうか。

皆さん、美しい住みよい大村市を造るこの下水道建設の事業について、ご理解とご協力をお願いします。

下水道のある
美しい街
明るい生活

下水道は

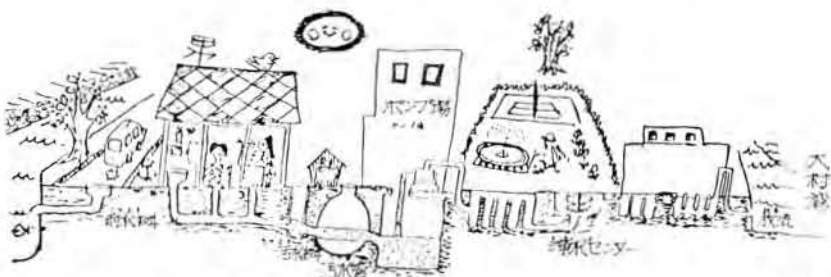
なぜ必要なのか？

人口がふえ、住宅や工場が多くなってくると、そこから出される家庭汚水や工場廃水の処理が一番の問題でしょう。皆さんの家の近くを見まわして下さい。
家庭や工場から出される汚水で川や溝は汚れていませんか？ また汚水がたまって悪臭を放ち、雨降りあとなどはドブや、水たまりがあちこ

りと街づくりのために、家庭汚水等を集め処理し、また雨水を完全に排除する下水道の

下水道のはたらきと

そのしくみ



建設を一日も早く進めなければならぬのです。

現在、皆さんの家の近くにあるク道路の側溝は、汚水や雨水を一時的に排除するため、本当の下水道ではありません。

「本当の下水道」つまり公共下水道とは、どういふものかを説明しましょう。
それは、皆さんの家庭で使われた台所、風呂場の雑廃水、水洗化された便所からのし尿、それに工場廃水等を地中に埋設された下水管に流して浄水管理センター(処理場)に集め、そこで化学的、衛生的に処理し、きれいな水にして海に放流するものをいいます。したがって、下水道が完備されると、くみ取り便所は水洗式トイレになり、ドブや不潔な水たまりもなくなって明るく衛生的な生活が営めるわけです。

そして、川や大村湾は本来

下水道の役割とその効果

の姿を取り戻し、雨水による浸水もなくなり、カヤハエの発生を未然に防ぎ「住みよい快適な環境づくり」ができるのです。

● 水洗トイレの使用が可能

不快なおいの「くみ取り式便所」はすべて「水洗式トイレ」となり、明るく衛生的な生活が営めます。

● 低湿地帯の浸水の防止

汚ない水たまりや、低い土地の浸水もなくなり、雨水を完全に排除しますので土地のねうちが上ります。

● 河川の水質汚濁の防止

川や溝は、今までのように洗剤や浄化槽からの汚水等が流れ込まないので、川は再びきれいな流れを取り戻すことになりす。

◆「全国下水道促進デー」 9月10日

◆ 下水道 ひらく暮らしの 新時代

“たれ流し”の

国民生活



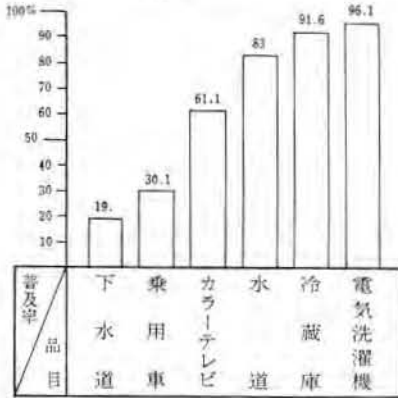
このように、下水道は皆さんの生活に直結した欠くことのできない基礎的な施設であるにもかかわらず、洗濯機や冷蔵庫を使い、カラーテレビを見、清浄な水道の水を使っているのに、下水の方はたれ流し々の生活といえそうです。

下水道の整備を進め、一日も早く、くみ取り便所を水洗トイレにおし、ドブをきれいな川にして、水質公害のない「豊かで住みよい大村市」を造りたいものです。

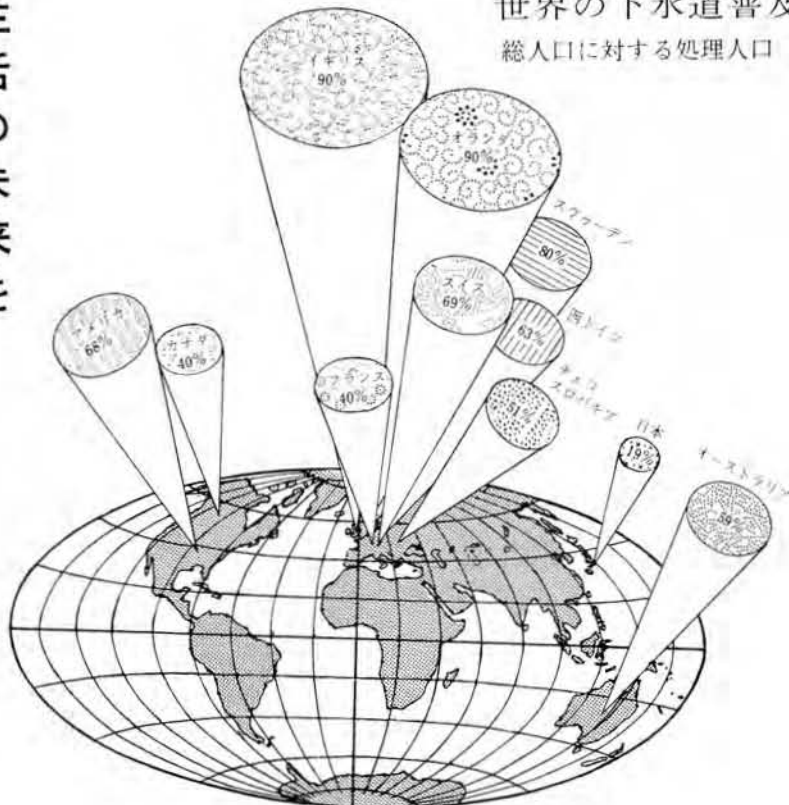
● 都市の美化と 水の再利用 ●

きたないドブがきえて暗きよになり、上部は道路などに活用されるので街もすっきり美しく清潔になり、また処理された水は、工業用水などに再利用できます。

日本における下水道と耐久消費財の普及率



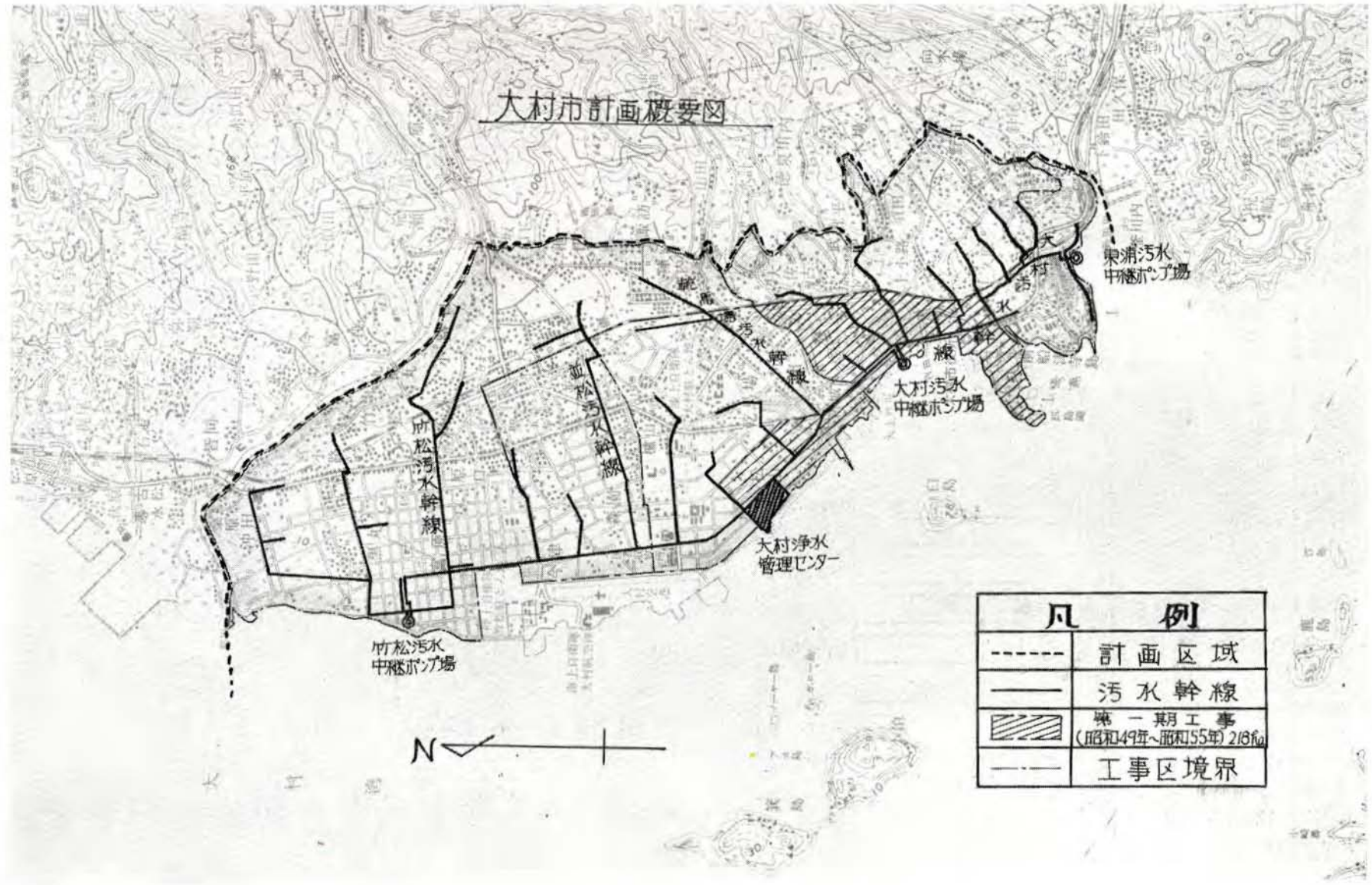
世界の下水道普及率 総人口に対する処理人口




生活の未来を

ひらく下水道

大村市計画概要図



凡 例	
-----	計画区域
————	汚水幹線
	第一期工事 (昭和49年~昭和55年) 2/186
-----	工事区境界